

あおばの  
日常生活紹介  
池谷 光恵

あおばは、入所者18名(横地分類A1が10名、A2が2名、B2が1名、C1が2名、D2が1名、D6が1名、E1が1名)のゾーンです。日常生活では、ひとりひとりにあった内容を考え提供をしています。

B1-BのAさんは、周りでいろいろな音や声をよく聞いています。職員が挨拶をしてリビングに来ると、その声を聴いて誰なのか分かります。

「横地分類(改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

E6						E5						E4						E3						E2						E1					
D6						D5						D4						D3						D2						D1					
C6						C5						C4						C3						C2						C1					
B6						B5						B4						B3						B2						B1					
A6						A5						A4						A3						A2						A1					
戸外歩行可						室内歩行可						室内移動可						座位保持可						寝返り可						寝返り不可					

<知能レベル>  
 簡単な計算可  
 簡単な文字・数字の理解可  
 簡単な色・数の理解可  
 簡単な言語理解可  
 言語理解不可  
 <特記事項>  
 C:有意な眼瞼運動なし  
 B:盲  
 D:難聴  
 U:両上肢機能全廃

<移動機能レベル>  
 簡単な計算可  
 簡単な文字・数字の理解可  
 簡単な色・数の理解可  
 簡単な言語理解可  
 言語理解不可

職員の名を呼びます。また、自分のラジカセを使いながら歌やラジオを聴いて歌を口ずさむことがあります。Aさんには、言葉の音やリズムの面白さを感じることや、最後までやり遂げたことで、満足感が得られる活動の提供ができればと考えています。今は、職員の歌や演奏のリズムに合わせてピアノ演奏の音を出したり、歌ったりできる活動を行っています。歌を歌っている時には、声が伸びやかに出て生き生きとした表情です。職員が「上手だね」「すごいね」と褒めると一段と嬉しそうにします。また、職員がピアノを弾き始めると、Aさんは鍵盤

盤に手を伸ばして音を出そうとしたり、リズムに合わせて鍵盤で音を出したりします。1曲を通して歌ったり、リズム打ちをすることで「できた」という達成感、満足感を得た様子が感じられます。

A1のBさんは、絵本を読んだ時、ゆっくりページがめくられる動きに注目します。色の変化やものの動きに気持ちや変化にリズムを感じることにより関心を持ち、楽しみたいと思う気持ちになるのではないかと考え、活動の提供をしています。ページをめくるたびに、鮮やかな色が出てくる「くまさんくまさんなにみているの」を読んだ時はページをめくられる動きと絵を、じっと見ていました。「いいいないないなあ」の本を読んだ時、「いいいないないな」の言葉に合わせページをめくるのをよく見ていて「ばあ」と絵の変化がみられると口元を緩ませ笑っているような表情が見られました。隠れていた顔が出てくるのが楽しいのだと思います。

日常生活では活動中の表情をよく見て、楽しみや心地よさと感じるものは何か、もっと聞きたい、見たいという気持ちになるにはどのような活

動がいいのかを考え、より良い日常生活を提供できるように取り組みたいと思います。



ひかりの子の  
日常生活紹介  
牧野 やよい

になりました。また、充実した保育ができるように、肢体不自由児クラスと重症心身障害児クラスに分けました。日々の保育の中では、紙・ボール・音・絵本の4つの遊びを中心に組み込み、ひとつの遊びを2、3ヶ月継続して行なっています。今回は絵本遊びを紹介しますが、絵本にはいろいろな要素が含まれています。興味を引く場所はひとりひとりで違います。例えば、くり返し言葉、擬音が入った言葉が楽しいと感じる子、ページをめくる時の動いている紙に注目する子がいます。

「ひかりの子」は就学前の幼児を対象とした通所部門です。現在、1歳から6歳までの21名が利用しています。横地分類では、A1が11名、A2が5名、A4が1名、A5が1名、B1が1名、B4-Dが1名、C3が1名です。平成24年4月、児童福祉法が改定されたことにより、名称が「児童発達支援センターひかりの子」に変わりました。それに伴い保育時間が延長され、個々の利用時間に合わせたと午後の保育も提供すること

A1のAちゃんは、職員が他の子に読んでいる声を聞きとり、うふふと笑います。すぐやツリーチャイムなど音がする方に顔を向けて探している様子もみられます。Aちゃんは擬音語やくり返し言葉が出てくる絵本で楽しみます。職員が用意した黄色い大きな絵本を目の前で開くと、何だろうという顔をします。「もこもこもこ」の絵本では、「もこ」とか「にょきにょき」の言葉を聞きながら手の平がゆっくりと開き、「つん」「もこもこもこ」などの言葉では、手や足が自然と動き出し、アハハ…と笑い声も聞かれます。